



ボリビア通信

日付: 2025 年 1 月 15 日 no.21

発行者: 田邊紘起

¡Feliz año nuevo! (あけましておめでとうございます)

¿Cuál es su meta para este año?

(クアル エス ス メタ パラ エステ アーニョ?) あなたの今年の目標は何ですか?

一日一日を大切に、目標達成に向けてコツコツ頑張りましょう!

前回の通信で「次回はアスンシオンの年末年始についてお知らせします」と伝えていましたが、この年末年始はパラグアイのとなりの国「ボリビア」にいたので、今回は「ボリビア通信」というタイトルにしました。

ボリビア、天空の首都ラパスで年越し

12月31日にアスンシオンを出発し、世界一標高が高い首都ラパス（標高3600m）に到着しました。富士山の山頂（3776m）とほとんど同じ標高のこの街は、私たちがふだん生活している場所の3分の2ほどの酸素濃度で、高山病（空気が薄いせいで頭痛や吐き気などが起きる病気）になる心配がありました。そのため、行く前から予防薬を飲み、少しずつ体を慣らすように準備しました。

到着したのはラパス近くにあるエルアルト 国際空港という世界一標高が高い空港（4100m!）で、そこからロープウェイ（テレフェリコ）を使ってラパスの街に下りていきました。



el alto からロープウェイ"テレフェリコ"でla pazの街へ下る。斜面には家がびっしり

着いてしばらくすると、ちょっと歩いただけで息が上がり、心臓がバクバクしていることに気付きました。酸素が薄いせいでと実感でわかり、少し怖かったです。空港で、ボリビア人の友人が酸素ボンベをもって待っていてくれたので少しほっとしました。

年の瀬のラパスは、街じゅうに露店（お祭りの出店みたいなテント）がびっしり並んでいて、たいへんなにぎわいでした。その雰囲気圧に圧倒され、写真を撮るのを忘れてしまいました。酸素が薄いうえに街じゅう坂だらけのため、標高に慣れない旅行者泣かせの街です。初日は夜の到着だったため、まずはホテルに入ってゆっくり休み、徐々に体を慣らすことにしました。



友人が持参したスーツケースより大きい
酸素ボンベ＝エルアルト国際空港

ところがその夜、年が明けた0時から街のあちこちで花火の打ち上げが始まり、大爆音が響きわたりました。日本のような色鮮やかで大輪のきれいな打ち上げ花火ではなく、ピカピカ光るだけのものや音だけ（爆竹？）のものがほとんどで、酸素不足による頭痛で苦しい中、さらに花

火の爆音でなかなか眠れなかったという記憶が残っています。そんな私達とは関係なく、ラパスの人たちは楽しく新年を迎えているようでした。

翌朝、寝不足のままウユニの街に向かいました。ウユニの街はとても乾燥していて、西部劇の舞台のようです。そこから近くにある塩湖（塩の湖）を目指しました。道端では南米の動物リャマがのんびりと草を食べている姿にいやされます。



道端でコケをむしゃむしゃ食べるリャマの群れ＝コルチャニ村付近

ウユニ塩湖は標高3,700mにある南北100km、東西250kmの広大な湖です。湖といってもふだんは乾燥していて、長年の雨で山の岩塩が溶け出し、湖で水分が蒸発することを繰り返してきた結果、見渡す限り平坦な塩の平原ができたようで、日本人の私から見ると大雪原のようでした。塩湖には、日本や韓国の観光客もたくさん来ていて、あちこちから日本語が聞こえていました。旅行会社の現地スタッフも、日本人観

光客に慣れているのか、「トーモーターチー」とか「アーリーガートー」と、日本語で話しかけてくれました。



見渡す限り真っ白な「塩原」=ウユニ塩湖

この湖は100km（広島市役所から福山市役所間の道のり程）四方で高低差が50cmほどしかないため、「世界で最も平らな場所」と言われています。そのため、雨が降ると一面薄く水が張って、表面が鏡のようになるのだそうです。私達が行ったのは雨が降りやすい時期でしたが、ほとんど降らず、小さな水たまりがある程度で少し残念でした。しかし、この大パノラマの中に立つと、自分って自然の中では小さい存在なんだなあとつくづく感じるような不思議体験でした。



表面に薄く水が張り、鏡の上に立っているよう＝ウユニ塩湖

ボリビアの人はパラグアイに比べると恥ずかしがり屋が多い感じがします。でも、パラグアイの人と同じような温かさを感じました。

食べ物は肉（鶏肉屋が多い。リヤマ肉が名物）、イモ、とうもろこしなどが多いようです。ピケマチョという焼いた牛肉、フライドポテト、生野菜、ゆで卵をソースで和えた食べ物はボリュームがあって美味しかった



近代的な街並みに昔ながらの民族衣装「チョリータ」を着ている女性がちらほら＝ラパス

たです。クセがないので、日本人も好きな味だと思います。また、アピという紫コーンのホットジュースを飲みましたが、とても甘くて体が温まりました。その土地の食べ物を試食すると、現地のことがわかる気がします。



ボリビアのご当地料理のピケマチョ。シンプルな味。=ウユニ



地元の人に親しまれている「アピ」と「ハウイータ」というチーズパン=ラパス リナレス通り

日本の年末年始は、除夜の鐘や初詣といった落ち着いた静かなイメージですが、ボリビアのそれはとてもにぎやかなものでした。この旅行を通して、隣通しの国でも雰囲気や食べ物はいろいろ違うところがあるということがよくわかりました。そういえば、日本と韓国や中国を比べても同じことが言えますよね。

スペイン語・グアラニー語ひとこと講座

Me gusta ○○.(メ グスタ○○)：わたしは○○が好きです。

好きなものを伝える時に使います。Me gusta la música .(メグスタラムシカ)→「私は音楽が好きです。」Me gusta comer“(メグスタ コメール)→「私は食べるのが好きです。」のように使います。

親しい友達に質問する時には”me(私)”を“te(君)”に変えて”¿Te gusta comer?”(テ グスタ コメール?)→「君は食べるのが好き？」と質問することができます。

次回について

次回はパラグアイの伝統的な飲み物についてお伝えします。

Chao chao!nos vemos!